



結核制圧に向けた闘いに、大きな変革を

結核予防会国際部

世界結核デーは、細菌学者ロベルト・コッホが結核菌の発見を発表した日（3月24日）にちなんで制定されました。国内および世界の結核制圧を目指し、問題点を共有、対策を立案、そして実行を呼びかけるための運動が世界各地で行われます。

2011年のテーマは「ON THE MOVE AGAINST TUBERCULOSIS / Transforming the fight towards elimination」（結核制圧に向けた闘いに、大きな変革を（仮訳））。

結核に取り組む世界の動きが高まっている中、診断法、治療薬、ワクチン等の技術開発、すべての結核患者を早期に診断し、治療する努力を推し進め、結核対策に大きな変化をもたらす、制圧に向けて道筋をつけるという思いが込められています。

世界の結核は今 患者の3分の1以上は 未だ診断されていない…

アジア、アフリカなどの結核高蔓延国を中心に、世界では年間940万人が新たに結核を発病し、170万人が死亡していると推定されています。患者発見率（推定患者数に対する診断された患者数の割合）は63%であり、目標とされる70%を下回っています。つまり、結核患者の3分の1以上は診断されていないと推定され、患者の早期発見は今後の大きな課題です。

結核/HIVの重複感染、多剤耐性結核の問題も深刻です。毎年新たに発病する結核患者のうち約12%（110万人）がHIV感染を合併し、その約8割がアフリカ地域に集中しています。また、毎年新たに44万人が多剤耐性結核菌による結核を発病したと推定され、その半数以上を中国、インド、ロシア、南アフリカの4カ国が占めています。

「2015年までに結核罹患率の増加を食い止め、その後減少に転じさせる」という国連ミレニアム開発目標（MDGs）や、ストップ結核パートナーシップの掲げる目標達成に向け、国際社会が取り組んでいます。しかし成果は未だ十分ではなく、さらなる強化が求められています。

世界結核デー キー・メッセージ（概訳）

今こそ、障壁を乗り越え、結核のない世界へ

結核への取り組みをさらに進めなければ、2015年までに4000万人が結核を発病し、800万人が命を失うだろう。21世紀には治療が可能な結核で1人も死なせてはならない。

今こそ、野心的な研究計画を

近年の技術開発により、新しい迅速診断が今年中には可能になるだろう。しかし、簡易簡便な検査法、多剤耐性結核の治療薬、ワクチン開発のための研究資金は不足している。更なる資金提供を。

今こそ、すべての患者に届く公衆衛生プログラムを

結核を発病している人の3分の1が正確な診断と適切な治療を受けることができていない。すべての患者が診断され、治療を受けられるよう、市民社会、保健医療関係者、企業の連携の推進を。

今こそ、多剤耐性結核治療に野心的な目標を

多剤耐性結核の治療を拡げるには、政府の関与、質の良い薬の安定供給、保健医療関係者やコミュニティの協力が欠かせない。2015年までに、すべての多剤耐性結核患者に正しい診断と効果的な治療を。

今こそ、結核/HIV二重感染による死者ゼロに向けて

目指すゴールは明確である。2015年には結核/HIVの二重感染で死亡する人を半減する。すべての結核患者にHIV検査を。HIV治療を受けているすべての人に結核の検査を。すべてのHIV感染者に適切に予防薬や抗結核薬を。

参照Web：

- Stop TB partnership：World TB Day 2011, 2010/2011 Tuberculosis Global Facts
- WHO: Global Tuberculosis Control Report 2010